1271
10

秦浜志古曽熊蔵書
平留布美良勿思流之

仙媒子奏之十

守宮の妖

近頃の風説として聞くに、城郭の近あり。前
様のいでゝ生成り。古松の根ゝ
しゝ。宮のあり名物すごとし。曹洞家編初の伝奉
前宗とゝ。ゝ乃ゝ和よ名中居と話びく。庭樹等の
間仮とわゞりへ。云ふ出る巌と化りて化とする
秋の嵐よ木のゝふとまらく新しゝ。ゝとあるゝ
材望ゝ檀紙まうで来ゝ。その日と美るゝの根
とゝくゝそゝぐゝ。わゝゝられゝゝゝ
人のげとまゝ。ゝゝ書典ゝとゝゝゝ。
古ゝよゝ。ゝゝかゝゝ。庭樹の庫よのゝ

程こと味ひ〜へてそのづうこうこびしくりるあうこ巻ものこ
とかぞづくえとるとかつと侍行縁とうこと花こうけ
まてば勇のこけるづこふ宮ゑすづうるこへぐろうきがうしと
かつこかそこうえとはこう。鶴乃ゑこぐこくちいこと
ぞうして我とこてふ来れどもおるぐーゑこやらんぬいふ
人りのこたびうめこびりこきまいしふとしてよ。蛍雲貞元を
ところこんはさ海りて物乃こうふ動せぐるふづゆーゑ
これとんはくこ球ところきれたをれどかうぐげ泡いこうく
我しこの人とうして来こうこと花ふして物ごよいろ
まこしそやこうこ縁して机乃こまこびわぐ。蛍雲貞元
頭ところこく折これこちふ鶴こちこん雅藤の下ゑるこん
わこのこて犬よこけびつ。門ゑ出こく踊こふ。ぐこと

わうこく安蛍の人ゑ来れりそその中ふわうこゑもわうこ
もわうこ門ゑて分けこを宮ゑすけ地ぐつ人屋うわ
ぐ宮ゑのゑりをふ泊つこぐ一人ゑこびうこきこうびゑ
宮ゑりとうて先こうこ。ゑ幼ひうて物ぐこうとこ。
こうこ。仏はの泊こきこいりとも宮ゑーてうぐこめ
ここわうこ。ゑ蛍ゑ蛍ゑ学生こうこゑ来りこん
ぐ。泊ぞわうこ。ゑ折掃して社こうこせこう我宮こと
ゑこく来りて。細こうぐこうこうこ。ゑ蛍ゑ
すづりるこ人脇こゑこうこ。ゑ漫ゑこて杖こうこく。
一方わゑこうこせ来り鶴乃こうこくふわりゑこ。蛍雲貞元
とけこは貞元ゑ蛍のこうこくふ杉ゑこてこむこうこ
ゑ。その中こゑこ一人わうこ。ゑ蛍来して鳥帽子こ

りのたねうとみてうち流よひうへてかれてぬつちや
くちくとおてそべしぬぐどいめが目をかみくと振すべ
しとうよど八人前先が肩よとびのかりぬ年とかうり
そひつさそれど蓋そ先こわとそひ行くてゴの外
うにおあつぬ蓋の方乃長うのかりてそれびとゴ乃
ゴかりぬこれそそみのまざるかるぬまづちゝみそちを
てどと蓋とかくうんとかるひづかりくちくちをまた
うちちを一百わちとちゝ蓋そ方ヨてゝて帝と
つさそ鍋ぬゴ乃間より八ゝうゴ間ゝも七八ゝよりちの
人数方ゝをゝちすりちがぬすそ湯りるくぬ之な
らべいうぬたねえ湯りゝへてつやう我めとありれそ他
とうらぬぐそうかゝとすゝ八ゴ乃て腹意とる給

つゝ湯ゝにも長とそうりてつるべ一とつぬ数百人
ゝどゝに乃とかゝそうちくそうふ前方大ゝかとれ
湯どてそれがゝとうくあちゝ湯ゝのやまるゝとうつゝぬそのりぐゝを
ゝくゝぐちまぬそ乃のやまるゝとうつゝぬそのりぐゝを
ちるにくゝびぬぬぐ稼がうくゝちぬつゝをとゆゝしゝめゝとつゝな
乃くゝくやゝしそちあくぬのそゝよせひべくゝびぬぬぐゝちくく
長湯ゝをとつゝかゝゝてゝ門乃ゝへつゝを出ゝちてゝと出
ふゝぬるゝふ門のかゝり蓋ゝよそうちゝとちれぬぬも
しびいゝゝこのゝうぬ乃ゝ山のくゝゝてゝあ長ゝちゝ
あゝまりゝちゝくぐゝゝに門乃わゝゝゝを乃ゝふゝ文ゝ藤
あゝぬ東の方ゝよゝゝゝちるゝゝ郎ゝ乃りゝにあるゝゝて
守ゝちゝあゝり出入ゝちゝとあゝゝゝひくぬへゝりゝゝ

ひくくと添ちらに鄙ひろ〳〵おつり吹け
まてばちるまあり〳〵まりくこ二カ月ばかりとまるま
めそろ長一尺ばかりふとしてちこわ〳〵ぶれすかりち
ちまのまるうへ。村人の中より一人の若ものみて
俗りもちやうぶ一所に到来して武勇の人わり。
この所よ城とかまへこ居づくりをもこ〳〵新田
義治よんとうこうきこうその根源い到宮の金弟に
義隆殿こして出家あり。新田義治とりんこつを捨
てたびひるこ寡ものとりこれば。これわよ金と四こ
兄の到来ともこ先て。義宗とわ者こうどづるふ
幸宗と者どこて対面しこう義隆殿ご元服この
城よおりて守護よりぶ。城の井の中よすこけふぐ

とりへてのらぶそろ井のりこうこうしてこ
こそい鏡ひるる井入りこのもこうこうでふこの城
とるりこ出ばこうぶりこうこうこうこうこうこうてま
たびりひるこ寡ものこ一紙ろくと書
ていこう

立鐵蟲あり。拾蛭こうづがらい蛭こう
ぶりろ是ろ蛭ろ蛭こうふこうこうこうこ
ろうこうこて尾ろ尾ろ尾ろよとろこ蛭ぶこ
蛭蛭こうこうこうこ蛭こうこうこうこうこ
くもあるひい蛭井の中ふしぶ尾ろこ
この中ふ尾り蛭こうこうこうこうこ
そろこうこうこうこうこうこうこうこ

くらかけやま[illegible]とうそうこと[illegible]
[illegible]変化妖怪のわざうひをなす[illegible]
[illegible]と称し[illegible]
[illegible]
[illegible]

姑婦ゝ和ゝ

山城の國の郡ゝに稲荷ゝ社ゝ有ゝ宇治稲荷ゝ西
とゝ云ゝ郡ゝ[illegible]稲荷ゝ社ゝ有ゝ宇治稲荷ゝ西
稲荷ゝ社ゝ有ゝ西ゝ[illegible]稲荷ゝ社ゝ[illegible]
つゝてみゝしでの森ゝ[illegible]稲荷ゝ社ゝ[illegible]
[illegible]稲荷ゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

伽子卷十
九

伽子卷十
八

りてわりなくもりぐさうんとそれば鼠よりはまさ
まてくさうんよりはまさかふりくさりくさうんのごと
さうはのくしつもりぐさ舞とうさうはまさりもさ
ぶ紙のもくはの紙とうしまとこのくて鼠くさ
物紙のもくよりはかくさうのもくはの
はかくて鼠くさりぐさ舞もくはのくさはぐさりくさ
あれりぐさみかはかくさふくさたくさくさの世ぶ
もはとはくさぐれはれくさりはぐくさうう
くうくさくさくさはくさはくさ眉見くさうう
くくはりのはくさはくくく

はるばるとあやうしとこそ思ひ給へ
とゝろをふき風のさそふに新婦のみめ
ゆゑ人へ
わすれがたきものやうや
わすれ難き事ども幷ふ
上野の国平井の城はいとゝ物寂しき
ふるとゝの家民家こゝかしこせ免
りしも尾張国とのごてうこそひらんもとそ
うらうら平井の城よりは家新しかりけり
城中は一万石の和り金銀とりぐめ屋風清みる
花色色まゝにつくり出たる
うるはしく庭よりさ面くつろぎあつめ葉山家のそのさ
ゝとは紫ゆよつで来くうるはしく

まて咲つゞくとゝまりの花はいとゝ
寂しき乃身なほよ生ましまし
なるこゝろへてんのおさけるこゝ
はかりの人ゆゝみるひとうけ
ふるゝ家ばかりはやうしらるれ
しかりてでこゝろひらくかはよの一万とゝまりらひとう
わすれおよ人白石雪月こゝ
勢ゞ秋ゝこゝ懐ひ風つ
てをしふびまわらまでぞ
こゝろそのは百日ぞうるこゝ
つふはびえて涙へるひつ井
だんく雪月ゞ元亀のこゝ

やうの物を御これ申さるべき
こゝろ我慢なるもの
のとゝとゝまりあるまでは
かゝるべきものゝ
つとめおこなひ
とゝのもとゝ
でんこうとゝ
うこゝろ
そこゝろ
ゝこゝろ
とゝろ
まこゝろ

十日に成て御ゝ
あり先こゝ
ゝれしまとゝ
ゝ
すこゝ
せあゝ
やゝ
ゝ
ゝ

ひとりかたりたまへるを中みかど
きこしめしてくやしきものの思ひ
給へるかの香炉ひとりはあらで
つくれかたりけるとかたりつたへけ
る新六郎を聞給ひて一つうあざけ
る新六郎一連をとりかしこれはんぐわの
夫蕨泉のたちをいらんぜもしとそ
のをかたりつくるあべき後のちぎりとこの
世のみよりとかたりけるとうとでどうり
つゝ年と行すへて源
氏ものがたりの新六郎つくるあべきうんぐわひとを
ぐ也ものやう形らうきうり碁師さまとやうく業

とわすれしつゝ月とこゝろそやましてくらのうふかうん
うゝけの八宮殿のもとよりみすゝこにてにほふとゝえ
ゝをりごとにはひとめをもひきもて小はぎ白石中間ごゝ
ゝそらうゝさもしてを花のちりぬるいろ見ぬ人ぞうゝ
しるいろぞうゝとあるゝ時ぽ八重間ゲ遠をつけをわゝえ
ゝみしゝもぬぶなどいそのまゝ法ゝぶ人ゝあるゝゝ新
ゝ所ゝわゝゝゝよゝすゝ海ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

先ずつくりとのかハかをとり入るのぞくものさ
にぐ山ちと集ようぐりて先ゝゝゝゝあやゝゝれぐそ
のかゝもは名低乃刀わさ作ゝ金紙おいひゝゝゝゝ物ど
作ゝ大よ地ゝゝ甲作あ面ゝとゝゝ人とつい
しひとうふやりとめさせらるぐ山れ他人ゝ手まるゝゝ
ゝにぐゝ海ゝ名の甲ゝ山ぬゝゝゝゝんゝゝ大よゝゝ
給ゝ者ゝの手ゝゝゝゝ作ゝひゝあゝゝゝゝ山なまで
もゝゝゝゝの面ゝ入ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ面ん
の面ゝゝぐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝ作が宗流の軍ゝ作ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ八版箱二陣ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゆきくれぬれば甲斐までぞ人丸は泣き来百里よりとも見
とゆきてゆくゑしらずなりぬ人はいかんとこそ思へと人
しまでぬべくなりぬ人丸は石見の国にて死にけり
の歌をぬきてあんばかりなりしかばかくしるしとどめ
給へりとぞいとやさしく侍るなり古今集序
今とぬきてこれらは世のつねのことばにはあらず
いとやさしくあはれなるなり
ものの道にあはれ
もあはれなりけるなり
いとやさしくあはれなるなり
あるとき時ちかきあるは父母
ありけんとも思へばかくは
あるとよしなしごとをのみ
うちとなりてぞなりぬ

ぬしとなりてゆくまでは沙汰とびくばかりして
障のちは絶えにけるとぞ
りとぬしとなりてゆくものは
なりとぬしとなりてゆくものは
絶えにけるとぞ
絶えにけるとぞ
ぬしとなりてゆくまでは
なりとぬしとなりてゆくものは
世にとのびのは甲斐とは
はかりばかりとべきものとぞ
つて寝ものぞ
の歌をれば
さまりぬ
殺されぬ

ハ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

鍾馗 付 捻馬風

冥八筋のあひだに鍾のあ[illegible]
風吹たらりくたりの[illegible]
うあくうつ[illegible]
らけ[illegible]
安[illegible]
おたりの[illegible]
[illegible]
ハ[illegible]
をとりわてらるふ[illegible]
ふ。捻馬風[illegible]

ハ[illegible]とゆ[illegible]
ゆ[illegible]
ず[illegible]
[illegible]
[illegible]

又世ゝをくれ、邪の芸ふとりて満家。ぜを案
ずるに、乗よりはしめ。おの勝見利の学校より成金を
の功とうを問が二世よりさつと神の面ひらきうぢ。
特学あやの名とかどもの。ぞの法結よりそ編み
舞右ありそ紙人みがくこゝろ
ゑまきるひぐ。なれえその天性学修伴れの用
あり。命ゝをおぐうもそ。一生の紙家とでゐ肩ふまつ
ゝ人芸法の衣神やぶまでの日と言すべき稽
よ生。山形ゝ学者の功なゝるゐぐもむよ人を
あゝと絵法の教ゝをわづうゐ年信して年月とか
ゝうまく名利のゐ作ゝよ絶でゝ。ゝゝゝゝあげき
ていそぐ他めゝ学者ゝ名ゐわぐ。

ゝゝ法ゐぐ。ぞの世よゆゝ。みゐ勇ゑ。りとゐ
び一ち人ゝゝゝあゝぐやゝとゝゝゝゝゝ
八芸の彩ゝ創ゝ植家八神の社ふのりゝ。れ
の芸ゐんや。俊の中南い巨易ゝ。ぐゝれ完獲ゐ
相来ゝゝゝゝ。ぞれ幼徳のゝそゝゐゝふわび
義因八信戸討紹ありゝく安海八絵信よゝゝぐゝ、
ゝれ者ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ぢゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝゝゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝゝゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝゝゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝゝゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝゝゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝゝゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

人のとゝ紙ひゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

とりつくべきもの天狗なり。よりて
とりつくべき書をかんがへるべし。
ゞ天狗道に魔ありとい
うべしとえらひ出すべしとおもふ
るはいかゞ。とりつくひつさきとあり。
とりつくひとの形ちとあり
ひて内をつくべしとへれりと
ひてゞ方結とりつくべきもの
よりの上位狸高好出偽和とりて
う飽満くるきこゝろみるべ
へるべし狸高の
せるあるとを結ばいくべ
う飢渇えぬ馬ハ対とうて

枳の中ふすして結集ハ蒙昧の名ようえづこて
とりくこゝとを武家ハ出家ハ沙門ハ孤やせる
繁うれうて法度のうちをみぞよごろびれとれる人
うくゝ邑人好色乃家いぶせよあうれく時のくこれを
風俗ありくゝりてだくこまれうくゝ乱ゝ
りゝけゝ天物乏ハでうくゝその黒ゝとえくひその織
とわてでふおやまくゝどどうそ世の人ゝ織とくゝ
と慢ふあうゝひみかゝて魔ゝよまうゝその中に和
うふゝあゝ和ゝふゝあゝなうゝのゝゝたうゝ黒ゝ
うゝ言とつゝ徳どゝ
とうゝあゝ福田因果乃
ゝゝ我ゝゝ家世ゝゝ

あうゝひいゝゝゝゝゝゝゝゝ養屬ゝゝゝ世の人ゝ
ゝゝふゝゝゝゝ或ハ法華経ゝゝゝゝゝゝ
ゝれゝゝハ徳ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ

ものゝ筆くゞり法ゆゑまうびくうぜにそれ堂にて
白子も同家もみるをそこ来たりあのくことあを
法ものゝ宮城寺中の堂にあるで。按ノ法の侵れ
もてそ業後一人所ならぞれより神力にて行とはい
ところ乃ちあくぐ法世とれそれ拙ゑ引脚ーこく
ゆゑいんといけりそ門

一 [illegible]

知恩寺多奏之十終